



長倉先生の思い出

Hiroki NAKAMURA 中村宏樹 分子科学研究所元所長

世界に冠たる分子科学者であり、日本の学術行政を牽引してこられた長倉先生がお亡くなりになり残念でなりません。先生は小生が分子研に赴任してきたときに丁度所長をなさっておられました。日頃、「100歳以上まで生きる」と仰っておられたのに……。以前から、大変怖い先生だと伺っていましたが、何のことだったかはよく覚えてはおりませんが、所長室で雷が落ち叱られ吃驚したことがあります。後で、旧長倉研の方から「察知して頭をすっと下げて衝撃波が通り過ぎるのを待つのだ」と教わりました。その後、それを試みようとしたのですが、先生もぐっと堪えて下さるようになりました。化学本流でない人間も暖かく受け入れて下さいました。先生はいつも嬰籙^{かくしゃく}としておられ、お会いすると自然と背筋がピンとなりました。

先生は、高い見識と弛まぬ努力を持って分子科学研究所を設立された立役者のお一人であります。分子研所長時代にも大変お忙しい中、総合研究大学院大学の創設を目指して尽力され、岡崎国立共同研究機構・機構長のときにこれを成し遂げられました。分子科学研究所は高い理念の下に国際的な研究拠点として設立されましたが、先生はさらに、分子科学のアジアにおける振興を目指して、日韓および日印の共同研究協力の推進に尽力されました。右上に掲げる写真は1986年に韓国で開催された第2回日韓分子科学シンポジウムのときのものであります。これを契機として、その後今日に至るまで多くの国際共同研究事業が実施されています。

先生からは何と言っても、「哲学」と「気概」の重要性を教えていただいたように思います。先生の講演を



第2回日韓分子科学シンポジウム

拝聴する機会が多くありましたが、そのたびごとに見識と哲学の深さ、そして、気概に感動させられました。所長時代に不幸にも重い病にかかれ手術を受けられましたが、医師の反対をも押し切って病院から駆け付け教授会議を差配されました。その気概には頭が下がります。病気の方が先生の気概に負けて退散したのではないかと思いました。先生の「見識の深さ、哲学の深さ、そして気概」は90歳を超えても嬰籙^{かくしゃく}としておられたときに執筆された卓見の書『「複眼的思考」ノススメ』（くもん出版）を読むとよくわかります。僭越にも、書評を書きました（化学 2016, 67, 56）。「志」を立て、一生努力の“気概”を持ち、意識を高揚して頑張ってほしいと、若者を激励されています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

© 2021 The Chemical Society of Japan